





ガバナー夫人
中野 眞澄



元国際ロータリー理事 千 玄室氏

皆様、こんにちは。

ただいまご紹介に与りました千玄室でございます。

2650 地区では、もうほとんどの方の知己を得て、私も大変ありがたい友情に感謝をしております。この地区大会はいつも 4 月開催でございますけども、例年ですとだいたい 桜の花が散りかけてあまり美しい景色ではございませんが、今年は天候異変で桜が遅れたものですから、嬉しいことに今が丁度満開でございます。もう本当に中野ガバナーのご人徳の至りだと、皆様方への何よりのごちそうだと、私心から思う次第でございます。

皆様方、今日のご来場本当にありがとうございます。それぞれお忙しい中、お出ましをいただいたことを心から感謝申し上げます。また、この地区大会が昨日から今日にかけてこの上ない天候に恵まれた中で私も皆様方とお目にかかれて大変嬉しく思っております。昨年は滋賀県の天津で、尾賀直前ガバナーにもお世話になりました。壇上からですけれども滋賀県の皆様方に厚く御礼を申し

上げます。

この地区大会というのはご承知の通りに、ガバナーがご自分の在任中に一年で一番いい機会を得る場でございます。

今年はスコットランドから RI 会長が出られました。「世界に希望を生み出そう」という、大変大きなテーマを持たれています。マッキナリー会長というのは大変な人物でもあり、スコットランドとしては初めて出られる会長でもございます。私も昔からよく知っておりますけれども、ある意味ちょっと堅物でございますけど、中野ガバナーもお会いして色々ご指導を受けられました。いい奥様とともに手を携えて本当に質実剛健な日々をお過ごし、内容の深いお方であります。

地区のガバナーというよりも、本当はもう RI の理事にでも出ていただけるような方で、私は大いに期待もしておるわけです。今日は来賓として大阪からも四宮 元 RI 研修リーダーがご出席賜っております。佐竹大会委員長と同期だそうで、本当に今日はありがとうございます。また、中野ガバナーの同期ガバナーの皆様方が本当に

お忙しいなかを昨日からご来場くださっております。先ほども申しましたように、この桜満開の京都に、大変いい思いをお持ちいただけたと存じます。やはり花があるということは非常に和やか、心が癒されますね。

そして、京都ロータリークラブの武田会長はお医者様でもいらっしゃいますから、皆さん方の心を癒し和やかにしていただくというのには持ってこいの会長。加えてこの地区大会においては、武田会長を中心にいたしまして、佐竹大会委員長、澤田実行委員長、そして京都ロータリークラブ一同が、一生懸命皆様方をお迎えして、このような地区大会を催すわけです。

私も毎年あちらこちらに地区大会に伺うわけでありまして、今日も来年の地区大会のために奈良から中本さんを始め 松山さん、それぞれ実力者にお出ましをいただいて、見学をしていただいている。まあ、そういうように、地区の中でもすべてのことが受け継がれていく。だから、中野ガバナー他、地区大会のガバナーは、色々なことごとをつなげる、つないでいかなければならない。

次の方々に色々な意味でバトンタッチをしていくということは、今のロータリーにおいて非常に大事なことなのですね。「やれやれもうこれで終わった。自分たちの会長にしても、幹事にしても、各委員長、またガバナー補佐の皆様方も、色々重要な任務はもうこれで終わり」ということではなく、この地区大会というものを中心にしてですね、マッキナリー会長の提唱された「create hope」、世界にこの希望というものを、本当に自分たちの何かの力でそれに寄与できたかどうか、顧みることではないでしょうか。

私も 100 歳になりまして、今まで健康でありましたが、ちょっと体調が、やっぱり歳とともに衰えてきました。武田先生や中野先生のおかげで健康診断をやりましたら、やはりちょっとどこか悪いというようなことが出てまいります。人間は自分で自分の体の調子のよさとか悪さとか、色々な意味で自分の健康診断ができる。それに基づいて早く早期治療するとか、色々な治療をしていくということは大変大事なことです。油断することなく自分の身体でも自慢して身体が良い良いと思っていても、悪いところが出てくる。それをチェックする。それと同じようにロータリーも、古いロータリーから新しいロータリーに至るまで、やはり会長・幹事が自分の与えられた任期において、ガバナーのご指導の下にどれだけ自分たちの奉仕の真心が発揮できたかということをチェックしていただくこ



地区大会当日

とが大事だと思います。前年度から受け継いで、無事過ごしたということでもありますけれども、そういう前年度からの引き継ぎを受け継ぐだけで満足するのでは、クラブは発展しませんし、また、真の奉仕というものが実現できない。

皆さん、どうぞこの地区大会に参加されて、中野ガバナーから閉会のご挨拶があったときにチェックしてみてください。この 1 年どうだったかな、と。



地区大会当日

そしてまた、中野ガバナーは素晴らしい指導要綱をお出しになった。まず、個人がロータリーというひとつの活動体の中に入った。それぞれがご自分の持つておられる職業というものを代表してそのクラブに入っている。そして、ご自分の性格は自分自身で色々とわかっておられるはずでございすけれども、毎週のクラブのミーティングに出席する、それとともに委員会とか地区内の催しに努めて自分から進んで参加していく、その参加するということが自分自身を色々な場所で見つめ直すことができる、重大なところでございす。

人間にはそれぞれの想いも価値観もある。その人間としての思いや価値観を、ロータリーにおいて見直し、見出さなければならないのですよ。私は、もう 65 年という長い間ロータリーに参加させていただいたなかで、本当に自分自身が真のロータリーというものをわかったのかどうかと考えることがあります。私は父が古いロータリーのメンバーでありました。小学校の 3 年くらいの時に父がちょっと晩酌でご機嫌になりますと、「なあ、ロータリーというのは、紳士の集まりだ。人間のどんな立場にある者でも人格というのが大事。そういう人格を自分で見つめ直す。そういう人間の修練、修行の場がロータリーなのだ」と聞かされたことがあります。「ま

だ君たちにはわからないかもしれないけれども、いずれはロータリーというものはどういうものかうすうすながらわかってくるだろう」と。

私の同級生にも、ロータリアンの息子さんがいました。特に 1 年下の堀場さんが私の後でまたガバナーを務めてくれました。そういう、仲間もたくさんおりました。家族会などに連れて行かれて、それで、何か知らないけれど手をつないで歌を歌っている。「なんか子どもみたいだなあ」と堀場くんたちと笑ったこともあります。そういうことが積み重なって、小さい時から「ロータリーって何なのかな」という、ひとつの疑問を与えられてきました。

そして戦争が始まりました。戦争中、「ロータリーというものはアメリカでできたもの。ロータリーなんて、そんなものはけしからん」と。もう、軍部からきびしい追及をうけて解散せざるをえなかった。ロータリーは解散して、そし



2000 年 10 月 リチャードキング RI 会長エレクト (当時) と
てロータリーという名前は使えない。戦争中、それでも私たちの父は毎週水曜日に、ロータリーではなく名前を変えて「水曜会」というような名前をつけてロータリーに行き、自分の知らない方々とひとつの職業を通じて、奉仕というものをささやかながらでもしていたわけでありす。

ポール・ハリスがこういうことを言っていま



地区大会当日

す。「ロータリーというものを世の中では皆勘違いしている。ロータリーのメンバーになるのは超エリートでないと入れない。財産がないと入れない、と。とんでもないこと。ロータリーはそういう差別のない、discriminationのない本当に人間がみんな裸になって、自分の職業さえしっかりと身に付けておれば、その職業を代表してロータリーというものを構成していくのだ。だから、超エリートの、金持ちの人の集まりのクラブではない」と。

ポール・ハリスはこうも言っています。「そして、ひとりひとりのメンバーが誰にでも良心、その良心が good will good mind、その good mind 善意の心を前に出して、そしてお互いにその善意の心の中から何か世の中のために、少しでもお役に立つようなことができればいいのだ」と。ロータリーを創った時からポール・ハリスは友情というものに支えられながらそういう奉仕の目的というものを達成していくようにしたわけです。ですから、これほど世界中にロータリーが発展するとはよもやポール・ハリスは思いもしなかったでしょう。

ポール・ハリスたち最初のロータリーを創ったメンバー、5人のメンバーは何を語り合ったと思います？自分たちはそれぞれの職業をもっているけれども、何かシカゴのためになること

をやるのではないか、その一言だったのです。

あの当時シカゴはまさに反国家的存在。アルカポネのようなマフィアのボスたちが抗争を繰り返し、街は荒れていた。道徳的にはもう落ち込み切っていた。そういう中でロータリーを創ったのですよ。最初にポール・ハリスが5名のメンバーと一緒に金を出し合って造ったのは何だと思います？公衆便所。公衆便所を造ったのですよ。まあ、それがロータリーの奉仕の一番初めであります。それからもう100年以上たった現在、私たちはこの国際ロータリーというものを創り上げ、クラブがあつてこそ、そしてクラブがあるということはひとりひとりのメンバーがおられてこそ、そのクラブが構成されて、そしてそのクラブが国際ロータリーを支えているわけです。

ガバナーという職責は会長を代表して、国際ロータリーの唯一のその年度のリーダーとして、



1987年8月 第16回アジア第1第3ゾーンロータリー研究会
自分に与えられた地区内のクラブの動向、メンバーのあり方、そしてまた国際ロータリーで示された色々なテーマを決めます。この最近の会長のテーマというのは何か夢みたいなことばかりなのですよ。例えば「その希望を世界に創り出せ」。それはどういうことだろうと私は質問をよく受けるのですよ。中野ガバナーも質問を受けましたでしょう。各パストガバナーは皆



地区大会当日

その年その年の会長のテーマで各地区に、クラブに、公式訪問する。「今年のこのテーマは何ですか？」という質問もずいぶんあると思うのですよ。「夢を現実に」こういうものははっきり言いますとロータリーにおいて一番よく使われるのですよ。皆理事会に出ましても、私どもの理事会の時と違って、今はグローバルサウスといって、所謂アフリカ諸国がもうどんどんクラブを創る。そして、アフリカの諸国がロータリーというもののあり方を自分たちだけで検討してきている。一番理事会で困るのは、そういう人たちがどんどん出てくるわけです。そして、ヨーロッパ、アメリカ、それぞれの色々な事々に対して反対をする。規定審議会が4年に1回、そういう規定審議会の中でも色々な、自分たちに都合のいい自分たちのロータリーに対する考え方を提唱していく。また、その人数が多い、グローバルサウスというような意味の中でどんどんアフリカ諸国が大きな勢力を持っていく。これからのガバナーは大変だろうと思いますよ。ちょっと覚悟して当っていかないとはいけませんね。「ああロータリーや、今まで通りのことや」と気楽な気持ちでいたら、段々厳しくなっていく。規定審議会でルールがきちっと決められる。例えば、出席率の問題。あるいはまた、それ以外にもロータリーは厳しいルールがある。このルー

ルがあってこそ、全世界にここまで発展してきた。そして、そういうルールを4年に一度色々な意味で悪いところを直していこう、とやって来たわけです。ところが、都合のいいような直し方をしてくるために、段々ロータリーの規約ルールってものがずさんになってきている。それとともに、私たちの国際ロータリーに出ていた役員時代と違って、非常に組織が強大な組織になってきている。まあ、動けぬ巨象といえますか、もう動いてはいるけれども、前進するその足並みが非常に遅いですね。

honorable action have a という気持ちがある。honorable action 今決めたことを前進しなくてはいけない。そういうような言葉を RI で使われるようになってきた。色々な意味でメンバー



1996年10月 アジア地域大会にて

が老化現象だ。私を含めて本当にロータリーの各クラブに中々若い人が入ってくれない。なかには強引に若い人を JC のメンバーとかそういう有望な連中を引っ張り込んでどんどんやっているとありますが、中々若い人が入ってこない。

そういう意味におきましては、本当にロータリーの存在価値というものがどういう意味をもっているか、皆さん、もう一度ロータリーというもののあり方をご自分の目で見つめ直し、考え直し、思い浮かべてほしいですね。



地区大会当日

今日、私は朝から青少年フォーラム、青少年奉仕委員会、新会員の会合に出させていただきました。新会員の方々を前にした中野ガバナーのお話でしたけれども、新会員の皆様方が、ロータリーに馴染んで行かれるためには、ご自分の持っておられる個性というものを、毎週ミーティングに出かけて行って、その中で見つめ直す。ロータリーの中の職業の違う方々と話し合い、肩をたたき合い、心を許しあうというようなことによって、お互いの個性が活かされ、自分の本当の個性というものが磨かれていく。

どなたにとっても、ロータリーとは基礎です。これはロータリーだけではない。スポーツにしても、私たちの茶道にしても、どんなものにしてもルール、基礎、やっていく順序というものがある。2段飛び、3段飛びではできません。地道にきっちと1段ずつ階段を登っていけるように、ひっくり返らないようにロータリーで決められたことをやっていかなければならない。

本来私達はひとりひとりが、自分の地域社会に対して何かお礼返しをしたいと考えている。善意の心というものはそういうふうに動いていませんか？

ロータリーに入って初めて、地域社会に自分の何かやりたいなと思うことが実現できないだろうかと考えるようになります。ロータリーの

もともとのポール・ハリスの基本はI serve から始まったわけですが、I serve ひとりでは何もできない。できたとしても本当に小さなことしかできない。2人、3人おればまたその力は大きくなる。だから、クラブというもの、メンバーというものを増やすことによって、その力によってI serve から We serve になっていく。ひとりでできないことを仲間と一緒にすることによって、例えばですよ、この地区の会合をこういう大きな地区大会でも、当番のホストのクラブが全員会長のもとに結集して、タスキをかけて、会社ではどんな立場にある人でも、社会においてどんな偉い人でもみんな同じタスキをかけて、そしてお越しになる方を誘導したり、色々な意味でおもてなしをする。



2000年10月 リチャードキングRI会長エレクト(当時)ご一家と

ところで、このおもてなしという言葉、最近、色んなところで使われていますけれど、言葉や、筆舌で言えるようなおもてなしは本来のものではない。これは嘘ですよ。みんなひとりひとり、心の中に、良心、善意、そういう気持ちがある。そういう善意、良心を少しでも地域社会のために、色々な機会に形にしたい。それを求めている色々な社会問題が少くないのです。

ご承知のように子供を育てていくということに対して悩みをもつ、また子供が成長していくにつれて段々反抗してくる、単に反抗ならいい



地区大会当日

けど、不登校になってみたり、あるいは引きこもってしまったり。自分の個性というものが黙殺されているような、将来がないような気持ちで閉じこもってしまう。そういう問題でもロータリアンがそういうことに関与していいか悪いかということは、私はその地区のガバナーの指導力にあると思うのです。あるいは、せっかく勉強したいと思っても、ひとり親家庭で奨学金がでない。各クラブでは海外の人たちにも奨学金を出しているけれども、そういう自分たちの地区内の保護家庭、自分が勉強に行きたいけれども学費が出せない、そういう人たちもたくさんいる。この地域社会にやらなければならないことがたくさんあるのですよ。なにもお金だけではない。自分たちが行って、そこでお世話をする、Take careをしてあげる。そういうことが私はポール・ハリスの願った善意のもとにおける人間性の価値観だと思います。

私たちはロータリーというものに入って、ロータリーにおける自分たちの居場所というものをまずひとつ考えなくてはならない。その居場所は何だろうか。まず、クラブの中で自分が自分の個性をもって、私にとってロータリーとは何だろうかと考え進めて、基本的にそれを身に付けていく。そして、身に付けていくと同時にロータリアンとしての行動を求めようとする。求め

ようとするそういう気持ちこそが大事なのですね。

今までも会社で、あるいはご自分の仕事のうえで、今やろうとしていることがぜひうまくいくようにと求める、そういう求め方というのは皆さんも経験がおありだと思います。でもね、「大切なのは、他の人のために何ができるかということ。自分を求める、探すことなのだ」と、中野ガバナーはおっしゃった。

個性、基本、そして求心力。この3つをロータリーのメンバーとして備えることができたならば、次は、はっきり言えば世に希望をどのように創り出していこうかです。人間の持っている夢というものが、サッと消えていくのではなくて、実現させていかなくてはと努力する。こ



2004年5月 国際大会 京都デー

れがなければロータリーとしての価値観、居場所というものはないわけです。

私たちメンバーとして一番大事なことは何か。私は5つのことを、自分の経験から申し上げたい。

まず第1は道徳心です。どんな人でも、道徳心というものは自分にあると思っていても、なかなか道徳心というものは自分では納得できないでしょう。道、いわゆる孔子が人倫道徳の道というものを教えられた時に、後に老子とか荘子とか色んな論客が出てきて、孔子の言った人



2015年10月 京都RC 90周年前夜祭 出席率100%連続50周年表彰

倫道德の道とは言うだけではダメだ。実行力だ。行動しなくてはならない、と言った。人倫道德の道というものを果たして自分たちが、Way、道として、目に見えないひとつの道の中を歩んでいくことができるだろうか。できているだろうか。私たちにとっては、それはロータリー道なのです。だから、ロータリーというものは自分を研鑽する、つまり切磋琢磨する場なのです。例えば人間の個性。引っ込み思案だとか、出すぎとか色々あります。そういうものをクラブの中で調整していくことです。そういうことをコントロールしていくこと自体が「ロータリー道」の所謂一番大事な道德心というものであることを教える。

第2番目は顧みる、反省する、ということ。例えばわずか1時間の会合であっても、その会合に出て色々な方とお会いする。そこで自分を顧みる。なかなか人間というのは顧みるということとはできませんよ。私は小学校のころ仏頂面して「おはようございます」と言っていた。小学校の頃、母親から怒られました。「あなたね、そんな仏頂面しておはようございますって言っても、だれもおはようございますと心から返してくれないわよ。一度、鏡を見てきなさい。顔を洗うでしょう。鏡を見て、鏡に映る自分を見て、『おはようございます。今日も元気で』と、言っ

てごらん」と言われました。晩帰ってきて、また洗面所で歯を磨く。「ご苦労さんやったな、明日も頑張ろう」と、鏡に映っている自分に向かって言う。「おはようございます。」「ご苦労さんだったね、明日も頑張ろう。」私はそれを小学校の3年ぐらいの時に教えられた。そうすると、不思議にですね、皆に「おはようございます」「おはようございます」学校に行っても「おはようございます」と言えるようになった。仲間の皆が、日本一行儀のいい家の息子やから、挨拶くらい当たり前といった顔で見てくれた時に、先生が「千な、いつもそうやって大きな声でおはようございます、と皆に言うことはいいことだぞ!」と褒めてくれた。初めて先生に褒められた。嬉しかったですね。

それからずっと今日に至るまでずっと、私は朝、鏡の自分に「おはようございます。今日も真実に対して誠実であるよう頑張りましょう」と声をかけ、夜寝る前にまた歯を磨いて「今日のご苦労さん」と鏡に映っている自分を見て、反省するのですよ。

私はね、ですからここまで生きて来れたのだなと思います。昭和18年(1943年)7月に東條内閣から「文系の学生は徴兵適齢期、20歳になった者は皆徴兵猶予取り消し、徴兵検査を受けろ」という命令が出て、文系にいた学生たちはびっくり仰天しました。医学部、農学部、理学部、工学部の学生たちは免除。私たち文系の法学部、経済学部、文学部の学生で満20歳になる人は全員徴兵検査を受けました。今のような繁閑な世の中ではない。もう戦争が厳しい時代です。軍事教練も受けていました。すぐに国のお役に立つと。徴兵検査を受けました時には、



地区大会当日

私も武道とか馬術で鍛えておりましたので一発で合格いたしました。そして、家に帰ってきて父母に「合格しました」と、報告した時に、父母が何とも言えない顔をしました。千家の15代を継いでいく、そのために育て上げた息子が軍へ行かなければいけない。弟が二人おりますけれども、長男の私を鍛えに鍛えたところ軍人になっていくのですからね。私は海軍に取られました。しかも、試験で選抜され、私は飛行科に所属しました。空を飛ぶのです。遊びではないので、すごい訓練を受け、士官になりました。でも、「君たち大学生出身は予備士官だ。スペアだ。兵学校を出てきたのは本当の士官だ。同じ少尉でも兵学校の者が上になる。」大学出の私たちは予備士官でスペア。辛かったですけれど、飛行訓練も死にものぐるいでこなしました。毎日毎日飛行機に乗って、降りてくたびに分隊長や教官から「お前たちは死にに來たのだ」とその一言。たしかに死にに來た。

最終的に海軍中尉になって、特別攻撃隊の編制になり、250キロの爆弾を2つ翼にぶら下げて、そして1500mから突っ込んでいく。教官から言われました。800mになった時から操縦桿を引かないと、そのまま墜落してしまうぞと。Gがかかって失神状態手前のところで、計器盤の高度計だけ見えて800mになった時に操縦

桿を引いて、バーンと上がっていく。その訓練を昼も夜もやらされました。私たち仲間、大学生から飛行機乗りになり、鍛えられた。また、徳島の航空隊から私含め30名、九州の鹿屋の基地へ行って、昭和20年の4月からどんどん出ていきました。私はね、桜の花を見るのも好きなのです。散る桜、残る桜も散る桜。出ていく連中が「千、待つとるぞ靖国で」桜の花びらを飛行帽に差して、みんな出ていきました。

私が出発しようと思った時に伝令がきて、「千中尉、隊長が呼んでおられます」ということで行きましたら、隊長が「待機命令が今きた。出撃取りやめ」私は三度頼みましたけど、命令が出ている以上それはどうにもならない。泣く泣く、私は待っておりました。そして、三日後に命令がきて、私は松山の基地へ転属を命じられて、それで生き残りました。

29名みんな突っ込みました。私の仲間は、戦闘機から艦上攻撃機、水上機でみんな突撃して、奄美大島から向こうに行った。グラマン、ヘルキャット、色々な艦船部隊と戦って大学から行った予備士官421柱、靖国神社に祀られております。ですから、桜の花を見ると本当は嬉しいけれども悲しいのです。皆桜の花をつけて「行ってくるぞ」。帽を振りまして出ていくものを送ってきました。散った桜はどこへ行く。風に吹かれて空へ行く。飛んで行った花びらが本当に役に立ったのかどうか。

ああいうような戦争が二度とないように、運動しておりましたけれども、ロータリーに入りまして初めて、ロータリーという大きな組織、世界の人たちと交流して、そして戦争のない世の中を創りましょうという思いをさらに固めま



地区大会当日

した。

私は 70 か国に参り、色んなロータリーのクラブのメンバーの方々と知り合いになり、色んなクラブヘメーキャップに行きました。RI の理事や RI の財団のトラスティ、理事は 2 年間ですけれども、トラスティは 4 年間、ポリオの国際の委員長も国内の委員長もお受けして 20 年間ポリオと向き合ってきました。

今日、青少年奉仕フォーラムで福井県出身のお医者様貴志先生が、素晴らしいポリオのお話をしてくださいました。ロータリーが今やなければならぬことは何であるか。私はこの前も諮問委員会でウクライナとロシアの戦い、イスラエルとパレスチナの戦い、色んなところの小競り合いを、ロータリーの力でなんとかしていないといけないのではないかと。そういうことをすること自体がロータリーの本当のヒューマニティではないかと私は申しました。1978 - 79 年度に国際ロータリーの会長になりました Clem Renouf (クレム・レヌーフ) というオーストラリアから出ました会長は、3H プログラムというのを創った。中野ガバナーはそれを大変貴重に思われて、自分の指針の中にもその 3H プログラムを入れてくださった。人種差別のない、戦争のない平和、humanity、次に health 健康、最後に Hunger 飢餓、この 3 つを本当にロー

タリーはこれからやっていかなければと。大変な共感を得ています。今、国連で、sustainable development goals という目標の中に色々項目があつて、その中に 3H プログラムも入っています。humanity、health、hunger、もうね飢餓戦線がきているのです。専門家たちの話によるともう 40 年 50 年したら地球上から食べるものがなくなってくる。人類の色んな意味において破滅がやってくる。どうするのだ、と。もっとロータリーも真剣に考えなければならない。

ところが、いつも言っているように、ロータリーは公益法人でも何でもないので。単なるロータリーなのです。これはどうしてかというと、各州によってアメリカは全部法律が違います。ですから、シカゴだけでロータリーがシカ



地区大会当日

ゴの州法によって創ったとしてもよその州では通用しないということです。ですからロータリーは無法人であり、何もない、肩書のない国際ロータリー、国際ロータリー財団、このふたつが一緒になっている。そういう意味において本当に奇妙な存在価値であり、国連にもっとハッパをかけていい。

7 年前にあのアメリカの財閥のビルゲイツが 4 億ドルを国際ロータリーに提供している。それをポリオ、その他の病気、菌に対して闘うめに使ってほしい。ただし全世界のメンバーも 4 億



2004年5月 千 玄室 国際大会委員長

ドル集めろ。合計8億。それを国連のWHOに持って行って、そして色々な菌をポリオだけではない、撲滅させていく道を作らなければならないと言った。

今やすべてを終了させるということはできない。色々な菌が出てきている。コロナでもそうです。ですから国際ロータリーはコロナの時は手も足も出ない。もう方々から「何とかして」と言われても、国際ロータリーとしては何もできない。ポリオに対しては長い間、WHOとの関係がある。そういう意味においてポリオに対しての貴志先生の先ほどの長いお話でも色々なことができたわけ。8億には達しなかったけれども、とりあえず国連に提供して、ロータリーの存在感、そういうものは認知していただけたけれども、平和に対して政治的な動きは一切できない。

ロータリーは政治問題には一切関連しない、関与しないというのは本来の目的なのです。辛いですねえ。私は色々なことをRI理事の時に提案しても、なかなかうまくいきませんでした。でもね、私はロータリーの5つの場ということを言いました。その5つの場の先ほど言ったように、人倫道徳、ロータリー道、道というものを学ぶ場である、次に自分というものを顧みなければならない。そして次には自分が奉仕

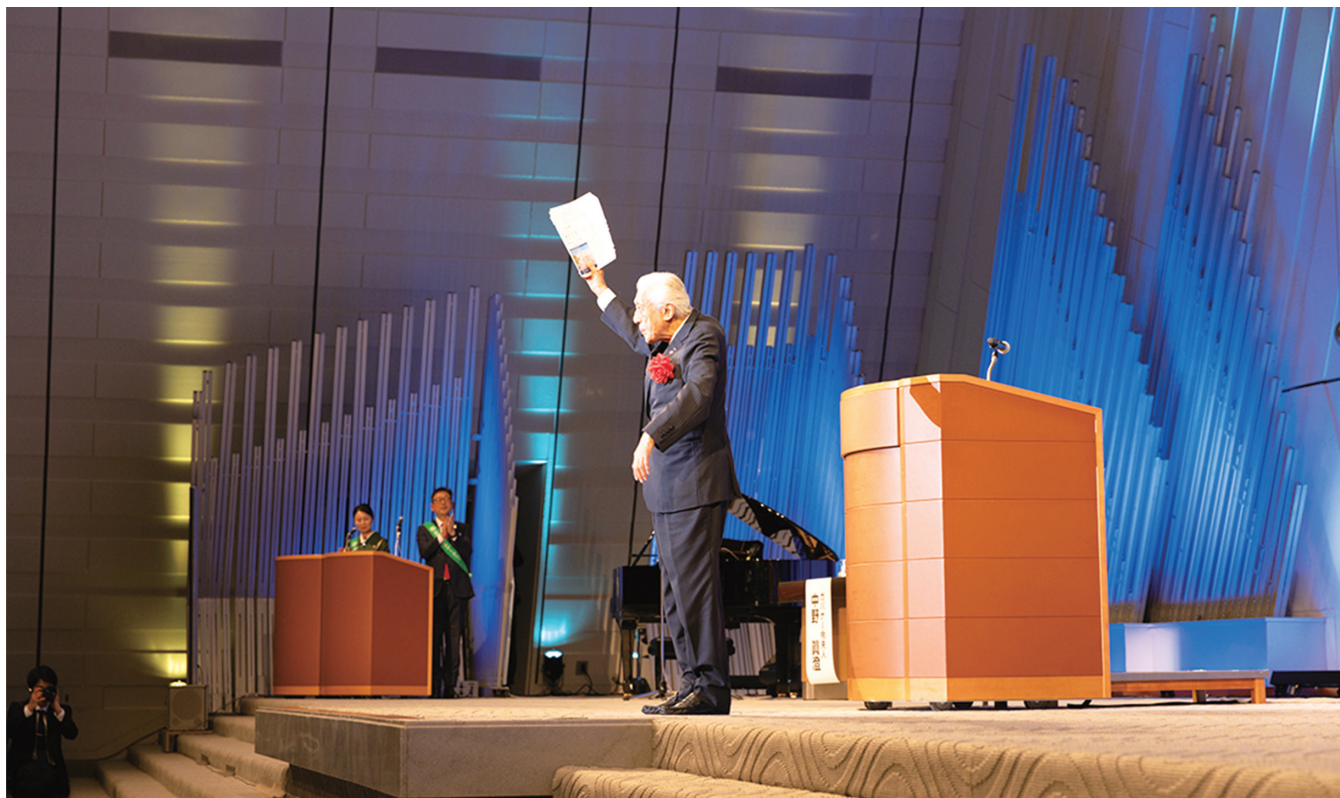
というものをどういように認識して、どういようにその奉仕というものに対して、service above self それをどのように自分の職場に活かしていくか、他の人にそれを活かしていくか、4番目にあらゆるメンバーの方と決まった人だけではない、もうクラブメンバーのひとりひとりと和やかに接していく、友情、親睦を深める。最後に社会にどのように自分の立場を通じて、家庭生活においても、和やかに過ごしていけるかどうか。こういう5つのことを私は皆様方に提示したい。

私はRIの色々な役職をしました。最終的には会長というのは残っていたけど、私は自分が現役で死んでいくつもりでありましたので、家内からも「会長だけはやめてください。」と言



2015年10月 京都RC 90周年前夜祭 姉妹クラブの皆さまと

われました。会長ノミニーになると2年間エバンストンに住まなければならない。エバンストンに2年も住んだら収入も何にもなくなってくる。現役の者には無理でございます。私は生涯現役ということで、自分が家元を倅に譲っても、私自体は自分自身のわがままではなく、生き方というものを自分自身で大切にしているわけでございます。どうぞロータリーというものに対する皆様方の思いを、考えていただきたい。creative pointという言葉があります。不可欠。ロータリーにおいて不可欠なのは奉仕だ



地区大会当日

けなのです。その奉仕ということに対する皆さんがひとつの大きな志を持って、そしてお互いに手を取り合ってやっていこうではありませんか。そういうことをやることによって本当にロータリーというものの価値観というものがもっともっと身近に感じることができるという想いを私はいたしております。

自分の長いロータリー歴の中で自分が考えたことは、まず人様を大切にすること。人様を粗末にしては絶対いけません。お茶の一杯を点て、どうぞ、いかがですか、と。人様に対して自分の本当の気持ちを一盃のお茶を通じて捧げていく。そういう私はお茶の道の中でロータリーというものをともに一緒にして今日まで生きてまいりました。

皆様方もそれぞれご自身の持っている職業、それを通じてどうかロータリーのもっと素晴らしい内容向上、そういうものを、やっていただ

きたい。

また中野ガバナーはこれからまだ少し残っております。お忙しいと思いますが、どうぞ最後の仕上げをこの地区大会とともにやっていただきたく思います。この地区内の皆様、一緒に手を取り合って中野ガバナーとともに歩んでいこうではありませんか。

皆様方のご多幸ご精進をお祈り申し上げます。私の話を終わらせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。